

## 提出された意見の概要とそれに対する市の考え方

案 件 名：第4次あきる野市子ども読書活動推進計画

募 集 期 間：令和4年12月15日（木）～令和5年1月14日（土）

意見等提出件数：12件（提出者3人）

第4次あきる野市子ども読書活動推進計画（案）に対する意見募集にご意見ありがとうございました。

以下のとおり、ご意見の概要と市の考え方について、ご紹介させていただきます。

	頁	項 目	意見の概要	市の考え方
1	全般	用語について	「概ね」と「おおむね」が混在しています。常用漢字表に照らすと「おおむね」に統一するのが良いと思います。	ご指摘のとおり、「おおむね」に統一します。
2	全般	用語について	「配布」と「配付」が混在しています。それぞれ意味が少し異なるので、意味に合わせて語句を選択すべきと考えます。	「広く一般に配る」ことを「配布」、「特定の人々に配る」ことを「配付」として表記しています。
3	全般	用語について	「貸し出し」「貸出し」「貸出」が混在しています。「公用文における漢字使用等について」（内閣府訓令）に照らすと、「貸出し」に統一すべきと思います。	「貸出冊数」のように「貸出」の後に名詞が続く場合は、送り仮名の「し」はつかないため、「貸出し」と「貸出」2つの表記で統一します。
4	P.13	第2章 ----- 1 あきる野市における現状と課題	<p>「あきる野市内の公立小中学校には、全校で司書教諭の発令と学校図書館補助員（学校司書）が配置されております。」とあるが、誤解を招く恐れがある。発令とは辞令や指示を出すことだが、市内全校の司書教諭が発令されてその職を務めているわけではない。ご確認いただきたい。</p> <p>学校図書館活動を推進しようとして日頃尽力している人々の世界では、司書教諭が発令されているかどうかということは重要な論点の一つになっている。</p> <p>なので全国学校図書館協議会が行っている統計調査でも発令されているかどうかを区別している。</p> <p>また、「学校図書館基準」（文部省 昭和34年）には、「兼任司書教諭の担当授業時間数は、週10時間以下とする。」の記述もあり、任命権者司書教諭として発令するか否かは重要な問題なのである。「全校で司書教諭発令」と事実と違うことを述べてしまうと推進派を慮った政治的な意図を疑われかねない。</p>	<p>司書教諭については、学校図書館法第5条の規定により、「学校には、学校図書館の専門的職務を掌らせるため、司書教諭を置かなければならない。」とされています。ただし、同法附則第2項及び学校図書館法附則第2項の学校の規模を定める政令の規定により学級数が11学級以下の学校には、司書教諭を置かないことができるとされており、現在、市立学校では、11学級以下の学校を除く全校で司書教諭を置いています。</p> <p>また、ご指摘のとおり、司書教諭は発令されるのではなく、学校内の役割として司書教諭となるよう命じられた者が司書教諭の職務を担当するものであります。表記については、「あきる野市内の公立小中学校では、11学級以下の学校を除く各校に司書教諭が置かれ、学校図書館補助員は全校に配置されております。」とします。</p>
5	P.15	2 あきる野市の第三次計画の成果と課題	<p>「子どもの読書活動が推進できる工夫を重ねていかなければなりません。」 →「読書活動が推進できる」は日本語として違和感があるので、「子どもの読書</p>	ご指摘のとおり、「子どもの読書活動を推進するために、工夫を重ねていかなければなりません。」に修正いたします。

			活動を推進するために、工夫を重ねていかなければなりません。」や「子どもの読書活動が推進されるよう、工夫を重ねていかなければなりません。」などが良いと思います。	
6	P.26	第4章 1 乳幼児期からの読書習慣の形成	【保育所・認定こども園等】の上に行空白行が必要ではないでしょうか。	ご指摘のとおり、【保育所・認定こども園等】の上に行空白行を挿入します。
7	P.26	1 乳幼児期からの読書習慣の形成	「幼児にとって、身近な大人から読み聞かせをしてもらうほか、ボランティアからの読み聞かせの機会も大切なことであり、ボランティアに定期的に読み聞かせを依頼し、絵本に触れる機会の充実を図ります。」についてです。 →なぜボランティアからの読み聞かせは大切なのかについて、理由も記載したほうが良いと思います。	「幼児にとって、身近な大人以外の、日頃接していない大人から読み聞かせをしてもらうことは、新鮮な刺激となり、新たな興味が生まれる大切な体験です。このことから、ボランティアに定期的に読み聞かせを依頼し、絵本に触れる機会の充実を図ります。」とします。
8	P.27	2 読書への関心を高める活動の推進	「中高生向け対象事業」について 多くの中高生はスマートフォンを持ち、電子書籍で漫画などを読んでいる。YA書籍を電子書籍として貸し出す考えはないのか。	電子書籍を導入あるいは予定・検討している自治体がコロナ禍以降、増加しています。しかし、導入済の自治体からはコンテンツ不足や予算不足が問題として挙がっています。特に個人向けの電子書籍の場合は、紙の書籍と同じタイトル、タイミングで利用できますが、図書館で利用できる電子書籍は、その中のごく一部に限られています。電子書籍は、様々な面で魅力がありますので、今後の状況をみながら検討していきたいと考えています。
9	P.28	2 読書への関心を高める活動の推進	「ボランティア向け講座について」 すでにボランティアをしている人向けの講座のように書かれている。読み聞かせに興味はあるもののどうやって読み聞かせをしていいかわからない初心者向けの講座は考えていないのか。さらにいえば読み聞かせに興味がある人と既存の読み聞かせボランティアグループの橋渡しや新規の読み聞かせボランティアグループ立ち上げ支援は行わないのか。	初心者向けの読み聞かせ講座やボランティア経験のある方へのフォローアップとなる講座をこれまでも行っていますが、第4次計画でも継続して実施します。 その中で既存のグループへの橋渡しや新たなグループ立ち上げなど必要な支援を行います。
10	P.28	2 読書への関心を高める活動の推進	「文庫活動」について 「文庫活動を行う団体があれば」という条件が付されているが、市として文庫活動を進める考えがあるなら、文庫活動立ち上げ支援について明記すべきではないのか。	コロナ禍の中であり、現状では家庭や地域交流の場などに人が集まることを前提とする新たな文庫を設立することは難しいと考えます。 しかしながら、家庭から図書館が遠い場合など、子どもには近くに文庫が設置されていれば、本を身近に感じる機会が増えるため、文庫の立ち上げに対しては団体貸出など支援を行います。

11	P.29	3 学校（図書館）の読書環境整備	<p>「また、不読率が高くなる小学校中学年以降の子どもに読む楽しさや本から知識を得る方法などを様々な取組で積極的に働きかけます。」についてです。</p> <p>→「読む楽しさや本から知識を得る方法などを働きかける」というのは、日本語として少し違和感があります。</p> <p>「また、不読率が高くなる小学校中学年以降の子どもに、読む楽しさや本から知識を得る方法を伝えるために、様々な取組を通して積極的に働きかけます。」などとするのはいかがでしょうか。</p>	<p>意図が伝わりやすくするため、「また、不読率が高くなる小学校中学年以降の子どもには、本を読む楽しさや本を通して知識を得る方法がわかるように、様々な取組で積極的に働きかけることが必要です。」とします。</p>
12	P.32	4 読書活動が困難な子どもの読書環境整備	<p>「様々な理由で読書が困難な子どもが読書できるよう図書等の購入をします。」についてです。</p> <p>→どのような図書を購入するのか記載した方が良いと思います。もしくは、「様々な理由で読書が困難な子どもが読書できるよう図書等の購入をします。」でも良いと思います。</p>	<p>ご指摘のとおり「な」を入れ「読書できるような図書等の購入をします。」と修正いたします。</p>